

令和 5 年 4 月 26 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00797

研究課題名(和文) 仏語教育における教師と学習者の「認知レペルトワール」に関わる言語相互作用論的研究

研究課題名(英文) Research on the Cognitive Repertoires of Teachers and Learners of French as a Foreign Language from a Perspective of the Verbal Interaction

研究代表者

石川 文也 (ISHIKAWA, Fumiya)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授

研究者番号：60295524

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：授業の中のことばのやり取りを録画し、それを起こしてコーパス(分析資料体)を作成した。これを補完するものとして、研究代表者(石川)が所属するパリ第三=新ソルボンヌ大学の研究グループで共同作成した、教師と教育アドバイザー(conseiller pedagogique)との振り返りインタビューのコーパスを利用した。これらを、インタクション分析、認知・発達心理学、現象学的社会学の視点から学際的に分析した。考察によって、教師と学習者の「認知レペルトワール」の発達には言語インタクションにおける相手の発話が有機的に関わっていることを明らかにした。成果は、査読付き論文4件と国際学会報告3件で発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教育の現場である授業の中の実際のことばのやり取りをインタクション分析、認知・発達心理学、現象学的社会学の視点から多角的・学際的に分析し、教師と学習者の「認知レペルトワール」の発達には、言語インタクションにおける相手の発話が相互に大きく、そして有機的に関わっていることを具体的に導き出した。これは、主として新しい教育メソッドの考案、学習者のエラー改善、学習者の動機(動機付け)、教育制度の変遷を中心テーマとしておこなわれてきたこれまでの日本におけるフランス語教育の研究に対して新たな知見を提供するものであり、その意味において日本におけるフランス語教育全体の発展に寄与するものであると言える。

研究成果の概要(英文)：We collected verbal exchanges in classroom with a video camera and transcribed them to create a corpus. This corpus was complemented by another, that of retrospective interviews between teachers and pedagogues (conseiller pedagogique), which was jointly created by the research group of the Universite Paris III-Sorbonne nouvelle. The principal investigator (Ishikawa) is a member of this group. These corpuses were analyzed from the viewpoint of interaction analysis, cognitive and developmental psychology, and phenomenological sociology in an interdisciplinary perspective.

The analysis and discussion revealed that the development of the "cognitive repertoire" of teachers as well as that of learners are organically related to each other's utterances in verbal interactions. We presented the obtained findings in four papers (all peer-reviewed) and three reports at international conferences.

研究分野：フランス語教育論

キーワード：認知レペルトワール フランス語教育 言語インタクション 教師 学習者

### 1. 研究開始当初の背景

日本におけるフランス語教育の研究は、主として新しい教育メソッドの考案、学習者のエラー改善、学習者の動機(動機付け)、教育制度の変遷を中心テーマとしておこなわれてきたのに対して、本研究は授業内の言語インタアクションに注目し、その分析を通して教師・学習者それぞれの「認知レペルトワール」の変化と成長のプロセスを明らかにしようとする点において、前者とは異なる。また、行為として表出した「認知レペルトワール」の変化・成長を、ディスコース分析、認知・発達心理学、現象学的社会学という学際的視点から分析することは、外国語教育論を、これらの分野を基礎的参照体系として主にフランスあるいはスイスで発達してきた、職業・専門教育(教員養成)、教育心理学、職業分析(analyse du travail)の研究に結びつける可能性を持つ。

以上のことから、本研究は日本におけるフランス語教育、およびフランス語教育論に新たな知見を提示することができるものであると考えた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、フランス語教育を取り上げ、教育の現場である授業の中のことばのやり取りを(言語インタアクション)教師と学習者それぞれの「認知レペルトワール」の相互行為的発現の場と捉えて、インタアクションと「認知レペルトワール」の発達との関係性を、主としてインタアクション分析、認知・発達心理学、現象学的社会学の視点から学際的に明らかにすることであった。

本研究で提起した問題は、教師の「認知レペルトワール」の成長は外国語の授業の中で学習者の「認知レペルトワール」とどのように対峙し、その対峙を通してどのように変化・発達するかであった。

### 3. 研究の方法

本研究は、実際のことばのやり取り(言語インタアクション)を学術的な手法で分析する方法を取った。

分析の対象となる材料として、授業の中のことばのやり取り(言語インタアクション)を実際の教室でビデオカメラを使って収録(録音・録画)し、それを起こしてコーパス(分析資料体)を作成した。これを補完するものとして、研究代表者(石川)が所属するパリ第三=新ソルボンヌ大学の研究グループで共同作成した、教師と教育指導官(conseiller pedagogique)との授業後の振り返りインタビュー(entretien retrospective)のコーパスを利用した。

これらを、インタアクション分析、認知・発達心理学、現象学的社会学の視点から多角的に分析した。

### 4. 研究成果

独自に収集・作成した授業の中の教師と学習者の間のことばのやり取り(言語インタアクション)によって構成されたコーパス(分析資料体)、およびそれを補完するパリ第三=新ソルボンヌ大学の研究グループで共同作成した、教師と教育指導官(conseiller pedagogique)との振り返りインタビュー(entretien retrospective)のコーパス(分析資料体)を分析し、それによって明らかにされた事柄について考察した結果、次のことが明らかになった。

(1) 教師の発話・学習者の発話は、いずれもそれぞれの「認知レペルトワール」の一部が

表出（言語化されたもの）である。

- (2) したがって、教室におけるやり取り（言語インタアクション）は、これらの「認知レベルトワール」が対峙によって作られているとすることができる。
- (3) 学習者は、この対峙の場において、「フランス語に関する『知』の理想的な所有者」である教師から、その「教師の認知レベルトワール」の表出である、「フランス語に関する『知』」の伝達を目的とした発話を受け取り、その発話に対して受け答えをし、その受け答えを教師の新たな発話（「教師の認知レベルトワール」の表出）によって評価されることによって、自らの「認知レベルトワール」（「学習者の認知レベルトワール」）を発達させていく。このように、「学習者の認知レベルトワール」の評価は、授業に関連しておこなわれるテストによってだけでなく、通常の授業中の質問に対する学習者の回答に対する教師からの発話によってもなされている。
- (4) 同様に、教師についても、教室における学習者との対峙を通して、自らの「認知レベルトワール」（「教師の認知レベルトワール」）を発達させていると考えられるが、教師が実際にどのように自らの「認知レベルトワール」を発達させているかは、それが認知に関わることであるため、学習者を評価する場である教室の中におけることばのやり取り（言語インタアクション）だけでは確認できない。
- (5) 教師と教育アドバイザー（conseiller pédagogique）との振り返りインタビュー（entretien retrospectif）は、教師が学習者とのことばのやり取り（言語インタアクション）を通して、自らの「認知レベルトワール」をどのように発達させているかを明らかにするための手段である。
- (6) 振り返りインタビュー（entretien retrospectif）で教師と教育アドバイザー（conseiller pédagogique）の間におこなわれたことばのやり取り（言語インタアクション）は、教師が「フランス語に関する『知』」の伝達のために授業中に自らが起こした言語的・非言語的行動や学習者の言語的・非言語的行動について自身が授業中に言語化はしなかった内省を、さらにはそれらの授業中の言語的・非言語的行動や考察についての内省を、教育アドバイザー（conseiller pédagogique）とのことばのやり取りを通して教師にことばとして表出させるものである。その意味において、振り返りインタビュー（entretien retrospectif）は、「対話型の、言語・非言語・内省に関して多声的な状況」である。
- (7) そのインタビューの中で、教育アドバイザー（conseiller pédagogique）は教師に対して、助言を与え、授業中に生じた問題の原因について自ら解明できるようような手がかりを与え、あるいは学習者の立場に立たせて、なにが問題だったかを自らで考えさせる。
- (8) そのような、教育アドバイザー（conseiller pédagogique）からの、教師を養成することを目的とした発話が、「教師の認知レベルトワール」の発達に大きく関わっている。
- (9) 以上のように、学習者の「認知レベルトワール」の発達、そして教師の「認知レベルトワール」の発達には、それぞれ、教室での言語インタアクションにおける教師とのことばのやりとり（言語インタアクション）、そして振り返りインタビュー（entretien retrospectif）における、授業内の言語的・非言語的行動と内省と授業後の内省を対象とした教育アドバイザー（conseiller pédagogique）とのことばのやりとり（言語インタアクション）が有機的に関わっている。

本研究の考察の結果は、査読付き論文4件と国際学会報告3件(うち1件はパネルディスカッション)で発表しているが、これらの原稿をまとめた報告書(『Rapport final de la recherche effectuée en 2018-2022 à l'aide du fonds de la Société Japonaise pour la Promotion des Sciences (J.S.P.S.) (Kiban-kenkyū (C)) : Recherche sur les répertoires cognitifs de l'enseignant et de l'apprenant de FLE du point de vue de l'analyse de l'interaction verbale (平成30年度～令和4年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告:仏語教育における教師と学習者の「認知レペルトワール」に関わる言語相互作用論的研究)』(N° de recherche(課題番号):18K00797)を独自に作成した。

本研究によって得られた成果は、主として新しい教育メソッドの考案、学習者のエラー改善、学習者の動機(動機付け)、教育制度の変遷を中心テーマとしておこなわれてきたこれまでの日本におけるフランス語教育の研究に対して新たな知見を提供するものであり、加えて、外国語教育論を、ディスカール分析、認知・発達心理学、現象学的社会学を基礎的参照体系として主にフランスあるいはスイスで発達してきた、職業・専門教育(教員養成)、教育心理学、職業分析(analyse du travail)の研究に結びつける可能性を示唆するという点において、日本におけるフランス語教育全体の発展、さらには海外におけるフランス語教育論の新たな展開に寄与するものであると考えている。

以 上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 ISHIKAWA Fumiya	4. 巻 22(52)
2. 論文標題 Approche bakhtinienne du discours de l'entretien retrospectif : un dialogue enonciativement, praxeologiquement et/ou cognitivement complexe	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Textura. Revista de Educacao e Letras	6. 最初と最後の頁 179-196
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.17648/textura-2358-0801-v22n52-5965	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 ISHIKAWA Fumiya	4. 巻 13
2. 論文標題 Le role des collegues stagiaires dans l'entretien d'autoconfrontation croisee : une analyse enonciative du discours en formation des enseignants de FLE	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Revista electronica Matices en Lenguas Extranjeras	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15446/male.n13.85996	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 ISHIKAWA Fumiya	4. 巻 17 (1 & 2)
2. 論文標題 Le developpement du repertoire et de l'agir chez les apprenants dans et par l'interaction en classe : une articulation de l'apprentissage des langues et des activites de description	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Revue japonaise de didactique du francais 30	6. 最初と最後の頁 30-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 ISHIKAWA Fumiya
2. 発表標題 Approche bakhtinienne du discours de l'entretien retrospectif : un dialogue enonciativement, praxeologiquement et/ou cognitivement complexe
3. 学会等名 Colloque international : << Les voix en dialogue. Heterogeneite enonciative et discours en interaction >> (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ISHIKAWA Fumiya
2. 発表標題 table ronde intitulee : << Le role des collegues stagiaires dans l 'entretien d 'autoconfrontation croisee : une analyse enonciative du discours en formation des enseignants de FLE >>
3. 学会等名 I Encuentro Internacional "Matices en Lenguas Extranjeras" para autores y lectores (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ISHIKAWA Fumiya
2. 発表標題 La confrontation des repertoires cognitifs en interaction : formation des enseignants et changements progressif, regressif et reflechi
3. 学会等名 Colloque international : << Agir professoral et changement : pourquoi et comment change-t-on quand on enseigne une langue ? >> (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 BALSLEV Kristine, BULEA BRONCKART Ecaterina, LAURENS Veronique & NICOLAS Laura (eds.) - ISHIKAWA Fumiya & al. (auteurs)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Editions Lambert-Lucas	5. 総ページ数 320
3. 書名 Les obstacles dans l'enseignement des langues et dans la formation des enseignants. Discussions theoriques et applications didactiques	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------